

デジタル情報 究極のセキュリティ 欧米で新たに脚光を浴びる

マイクロフィルムの新用途

工業技術新聞

平成十五年五月三十日

六頁

(株)国際マイクロ写真工業社(東京都新宿区笹筒町四三、代表取締役・森松義喬、〇三 三二六〇 五九三二)は、五月二十日(二十三日まで東京ビッグサイトで開催された「ビジネズシヨウトOKYO2003」で、情報媒体変換による二種類のサービスを紹介した。

「老舗かつベンチャー」を掲げる同社の提供する新たな二つのサービスは、デジタル情報をレーザー光線で三五mm幅のマイクロ



ドイツの最新のマイクロフロッター

フィルムに高速に書き込むサービスである。

二〇〇〇年問題の際、金融機関の究極のセキュリティ対策はアナログ化で、都市銀行を含める一八三行がデジタル情報消失の万一のバックアップとして、紙の出力(アナログ化)。積み上げると富士山の三倍に及んだと言われている。

デジタル情報のアナログ化のサービスが欧米で一気に脚光を浴びている背景には、情報化社会が急速に進歩する中で現在使用されているOSなどのソフト、ハードの陳腐化も比例した速度で進んでいることが伺える。つまり、HDやCDなどで格納されているデジタル情報が、数十年後に本来に利用できる環境が維持

されているのが危惧され始めたのである。

その点、紙やマイクロフィルムの情報は可視状態であり、数十年後にハードやOSに依存することなく判読を可能なので、将来必要ときにレンズやスキャナーでデジタル情報に可逆することができ。また、酸性紙は数十年の寿命だが、マイクロフィルムは期待寿命が五〇〇年(ISO-602)の長期保存媒体なので長年に渡つての保存が可能になる。また、コスト的にもA四一枚換算で二円という破格値でプロットできる。

同社では、ドイツ製の最新機器の国内第一号機を設備し、デジタルデータをマイクロフィルムにコンバートしている。

同社の提供するもう一つのサービスは、マイクロフィルム画像をパソコンで参照できるようにスキャニングするサービスである。

同社では他社に先駆けて設備投資を行ないマイクロフィルム専用の高速かつ高画質の米国製・英国製のスキャナーを導入してかつてのマイクロフィルム画像を

CDやDVDに書き込むサービスも行っている。

従来のマイクロフィルムは、情報の長期保存媒体として多く利用されてきた一方、閲覧に専門機器を使うため活用に不向きという短所があった。しかしこのサービスによりWEB上でマイクロフィルム画像を参照させたり、既存のプリンターでその画像をプリントすることが可能になり、運用とコストの面で飛躍的にメリットが得られる。

同社社長は「当社では先進諸国の手法をいち早く察知し、従来の老舗としての写真技術を生かしつつ、デジタル情報の長所と短所に対応しながら、より堅実なIT産業の理想的将来像への一助になる方向へ進んでいきたい」と話している。

同社のサービスの詳細情報は、

<http://www.kms.gol.com>

尚、同サービスは、六月二十五日(二十七日まで東京ビッグサイトで開催される「設計・製造ソリューション展」にも展示される予定である。

